

中々可申様も無之、其方心中令察、一入笑止ニ思候。虎口之儀ニ候間、無是非事と可有分別、一段かひくしき働之由承り、尙以不便不得申候。爰許悉く落居候。様体無類之義共、羽筑我らへ一段入魂候間可心易候。

四月廿七日

（本文書首尾を缺く。越登賀三州志に前田利家より富田治部左衛門景政に與へたる書なりといへり。）

四月廿七日。羽柴秀吉、溝口秀勝に、丹羽長秀がその所領のうち江沼郡を分ちたるを承認す。

【溝口家文書】

一七九八

越前國并賀州内余禰郡・能美郡兩郡、惟五郎左へ一職申談候之處、余禰郡之儀其方へ惟五被進之候。於秀吉尤候條、彼郡一職召置、百姓等召返、政道以下專要候。在々へ雖可申觸候、其方堅可被申付候。爲其如此候。仍如件。

天正十一

四月廿七日

筑前守 在判

溝口金右衛門尉殿

四月廿七日。羽柴秀吉、毛利輝元に、その北國平定の事情を報す。

【毛利家文書】

一七九九

先度御使札、殊御太刀一腰・馬一疋・銀子拾枚令拜受候。誠御懇之至畏存候。則御返事可申入候之處ニ、勢州表并北國之模様、御使者へ見可申與存延引段、併背本意候。抑去廿一日於柳瀬表及一戰、切崩、佐久間玄蕃、其外柴田一類五千餘討捕、同廿二日至越州府中相越候處ニ、柴田居城北庄へ逃入候之條、追詰本城取巻候。數年雖拵置要害候、即時乘崩候ニ付而、天守へ取上妻子以下刺致、切腹、廿四日辰下刻相果候。依之越前之儀者不及申、賀州・能州・越中迄一時ニ任存分候。然間右國々手置等爲可申付、越中境目至金澤令出馬候。來十日比可令上洛候之間、旁其御可得責意候。恐惶謹言。

四月廿七日

毛利右馬頭殿

吉 在判

參御報

四月廿八日。羽柴秀吉、毛利輝元の臣國司元武に、今日金澤城に入りたることを報す。

【西村文書】 武藏

一八〇〇

尚々右之趣、輝元は茂一々可被申候。委事ハ跡より追々可申候。此趣存分可然頼入候。已上。

書狀令披見候。廿一日及合戰悉討果候。柴田北庄へ逃入間、追詰、本城乘崩候之處ニ、天主へ取上、女房衆以下刺致、切腹相果候。佐久間玄蕃擲取之條、載車浴中可被渡旨申付候。越州儀者不及申、賀州・能州・越中まで任存分候。長尾人質爲可相卜、今日越中境目至金澤城相越候。來十日より内ニ可歸陣候。尙其刻可申聞候。恐々謹言。

四月廿八日

國司右京亮殿

筑前守 在判

四月廿九日。羽柴秀吉、金澤より寺内織部を上杉景勝の臣直江兼續等に遣はして、景勝の去就

を決せしむ。

【上杉年譜】

一八〇一

寺内織部方下國候之條令啓候。仍一日於柳瀬表令一戰之様子、並柴田切腹相果候趣、委細景勝に申入候之間、委不及申候。然者賀州・能州・越中屬一變候之條、國々置目等爲可申付、至金澤城令逗留候。就中柴田謀叛之刻、秀吉至越前直於令亂入者、可有御手合之由深重承候。其御手筈相違候條、最前五誓紙取申談儀反古罷成候。前後之固候間、其元御存分之通急度承可隨夫候。聊不可存疎意候。猶巨細織部方口上申達候條、懇被聞召屈、景勝可被申入事專一候。恐々謹言。

四月廿九日

直江山城守殿

狩野謙岐守殿

【佐々木文書】 武藏
越後儀、彌遂相談國切ニ於相澄者、執次之儀貴所へ可

一八〇二